

卒業生紹介

幸運の女神は準備のできた者に微笑みかける — パスツール

初の女性社員として、 研究留学を果たす

三菱化成（現：田辺三菱製薬）に入社して12年目。それまで、社内の創薬研究で成果をあげた人だけの特権だった研究留学制度が見直されて公募制になった。留学は順応性の高い若いうちに経験するのが望ましい。34歳になった森さんにとっては、ぎりぎりのタイミングに思えた。加えて、担当していた研究が行き詰まり、方針を見直さざるを得ない状況にもあった。「この機会は絶対に逃すまい」という背水の陣の思いで応募。選考面接では、研究計画のプレゼンテーションに加え、「女性が研究留学した例はない。後輩のためにも実績をつくりたい」と力説した。海外で単身で生活するという未知の世界に対する不安が頭をもたげたのは、米スタンフォード大学へ派遣が決まってからだった……

人生を変えた大学での 恩師との出会い

森さんは、元々、こんな風にタフにキャリアを切り拓いていくタイプの女性ではなかった。都立西高からお茶大理学部化学科に進み、大学4年生のとき、今野美智子先生の研究室に配属されるまでは、化学を極めて研究職に就きたいといった堅い意志も持たない、ごく平凡な学生だった。変わったのは、恩師今野先生との出会いだった。研究室に入って、いきなり、ブタ血液からのたんぱく質精製実験を一人で任された。まだ実験法が確立されていなかったため、古い論文をこつこつ解読しながら血漿を遠心分離し、大きなカラムに流して目的の蛋白質を分離する、といった単純作業を延々と繰り返す日々。「夜遅くなったときは、今野先生が差し入れてくれた惣菜パンをほおぼりながら、一緒に研究について雑談したものです」と、森さんはその時代を懐かしむ。当時米国から帰国したばかりでエネルギーに溢れる今野先生は、女



Mori Akiko
森 哲子

性が自立することの大切さを説いた。「そこから私の人生が変わった」と森さんは言う。そして、東大生物化学修士課程修了後、化学メーカーで、かつバイオを扱っている企業での研究職を選ぶ。三菱化成に入ったのは、女性を積極的に登用していることを知ったからだった。

キャリアの転機

2004年、2年にわたる米国留学から帰国した森さんは、留学先での研究テーマを活かし、アルツハイマー病治療薬開発チームのリーダーに抜擢される。世界各国から集まった多種多様な研究者たちとの切磋琢磨で磨かれたコミュニケーション力は、当時担当した大手仏企業との共同研究に役立ただけでなく、チームを引っ張っていくうえでの大きな財産になった。

今年4月、森さんに「想定外」の転機が訪れた。入社以来ずっと研究所で新薬の開発をめざして研究に専念する日々から、本社「製品戦略部」への異動だ。新たなミッションは、どのような疾患に対してどのような効果のある薬を開発すれば患者さんに貢献できるのかという視点にたって、会社の医薬品全体の構成を考え、その実現のために部門をまたいで調整する仕事だ。会社組織の根幹である「ビジネス」により近いところで新薬開発に関わる部署で、しかも女性キャリアは1名のみ。「自分が関与した薬が実際に患者さんの役に立つことを実感できる一握りの幸運な研究者になる」のが夢だった森さん

田辺三菱製薬(株) 製品戦略部主席

1989年
お茶の水女子大学
理学部化学科卒業

1991年
東京大学大学院理学系研究科
生物化学専攻修士課程終了

1991年
三菱化成(株)(現:田辺三菱製薬(株))入社、研究部門配属

1999年
東京大学にて農学博士号授与

2001年~04年
スタンフォード大学へ
研究留学派遣

2011年
4月から現職

にとって、夢に一步近づくための大きなチャレンジが始まった。その原動力は、大学時代、今野研で学んだゼロから何かを立ち上げる苦労と自信、研究に対する真摯な心だ。

入社以来これまで様々なレベルの転機が訪れた。自分の専門外の研究領域へのトップダウン異動命令で上司に抗議したこともあった。今、思えば、固執せず転機を活かしたことで、新しい自分の世界がひろがった。けれども転機は漫然と待っていても来ない。「幸運の女神は準備のできた者に微笑みかける」。フランスの化学者パスツールの残した言葉は森さんの座右の銘である。

文責：坪田秀子(学長特命補佐)

わたしのオフタイム

お茶大を卒業して間もない頃、恩師の今野先生と山小屋1泊の行程で白馬に登った。その時の朝のコーヒーのおいしかったこと！それ以来、気が向くと友人を誘って丹沢にハイキングに出かけている。夢は槍ヶ岳に登ること。普段から体力維持を心がけていつか実現させるつもりだ。